

2024年7月13日(土)

老球の細道 812

「オラ！ スペインへ 危機二髪」⑥

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昔から映画007の中でも「危機一髪」が好きだった。危機は一発だけでたくさんなのに、スペインでは2回も来てしまった。血圧の危機である。今回は安易に薬に頼りすぎ、そして頼った薬に裏切られる始末であった。クスリは反対から読むと「リスク (RISK)」。クスリの使い方を間違えると副作用で「危険」なことになるとのメッセージでもある。

【2014年 2月6日(木) 午後から夜】

「ウニカハ・マラガ」チームの育成責任者・ホセ・ルーカス氏からクラブチームの組織や育成システムについてミーティングルームにおいて説明を受けた。

そもそも「ウニカハ」という名前は銀行の名前で、クラブチームのオフィシャルスポンサーになっているとのこと。銀行がスポンサーになってからは資金面で充実し、良い選手、コーチをリクルートできるようになったそうである。来年度から郡山にできるbjリーグ「福島」チームのスポンサーは大企業がなく資金面で相当苦勞している。選手の年俸も信じられないくらい安く、アルバイトをしながらやらないと食っていけないだろう。

育成世代チームはサテライトチーム(2軍チーム)、U-18、U-16、U-15、U-14と5チームある。サテライトチームは全員が年代チーム(アカデミー)で育った選手である。練習は週4日、土、日はゲーム、1日は休日。練習時間は1日3時間で1時間がフィジカルトレーニング(体力強化)、2時間がチーム練習である。育成年代のアカデミー以外のこどもたちは「スクール」に加入し月謝月30~50ユーロ(4,500円~7,500円)を払いながらバスケットボールの指導を受けている。

いつもの御用達レストランで昼食をとり、いよいよコパデルレイ(スペイン国王杯)のゲーム観戦である。スペインプロリーグの8つのトップチームがトーナメントで優勝を争う。レストランから歩いて10分くらいのところにアリーナがある。昼食でビールを飲んだせいか、それとも血圧が上がっているのか歩いているうちにフラフラ。せっかく昨夜峠を越えて大丈夫だろうと思っていたが、また危機がやってきた。

アリーナでボディーチェックを受けて入場。1万人以上収容できるアリーナで観客がすでに大騒ぎでゲーム開始を待つ。「ウルセー!」。日本のゲームでは絶対感じられないとんでもない騒音である。ストレス倍増で危険信号が体に。すぐに血圧降下の緊急クスリを飲んだ。30分もしないうちに効果が出てきた。第1試合「リアル・マドリード対グラン・カナリア」のゲームはなんとか観戦できた。元NBA選手、セルフィオ・ロドリゲスとホセ・フェルナンデスの華麗なプレーに酔いしれた。しかし、2試合目にまたフラフラ感が。まずい、このアリーナで倒れたのでは日本に帰れない。一足先にホテルに戻って休んだ。

ホテルへ帰ってからも症状が悪化したのでまたクスリを飲んだ。1日1錠のクスリを3錠も飲んだ。頭フラフラ、心臓バクバクの状態が続く。クスリの副作用もあらわれ、体に震えが止まらない。病院へ行くか、我慢しながら症状が治まるのを待つか、一晩中葛藤が続いた。そしていつの間にか朝が来て目覚め、なんとか症状が落ち着いてくれた。

二度目の危機を乗り越えたが、宿敵「血圧」は簡単には私を許してくれなかった。(続)